

本能学区「防災まちづくり」ニュース

VOL. 2
(2020.10 発行)

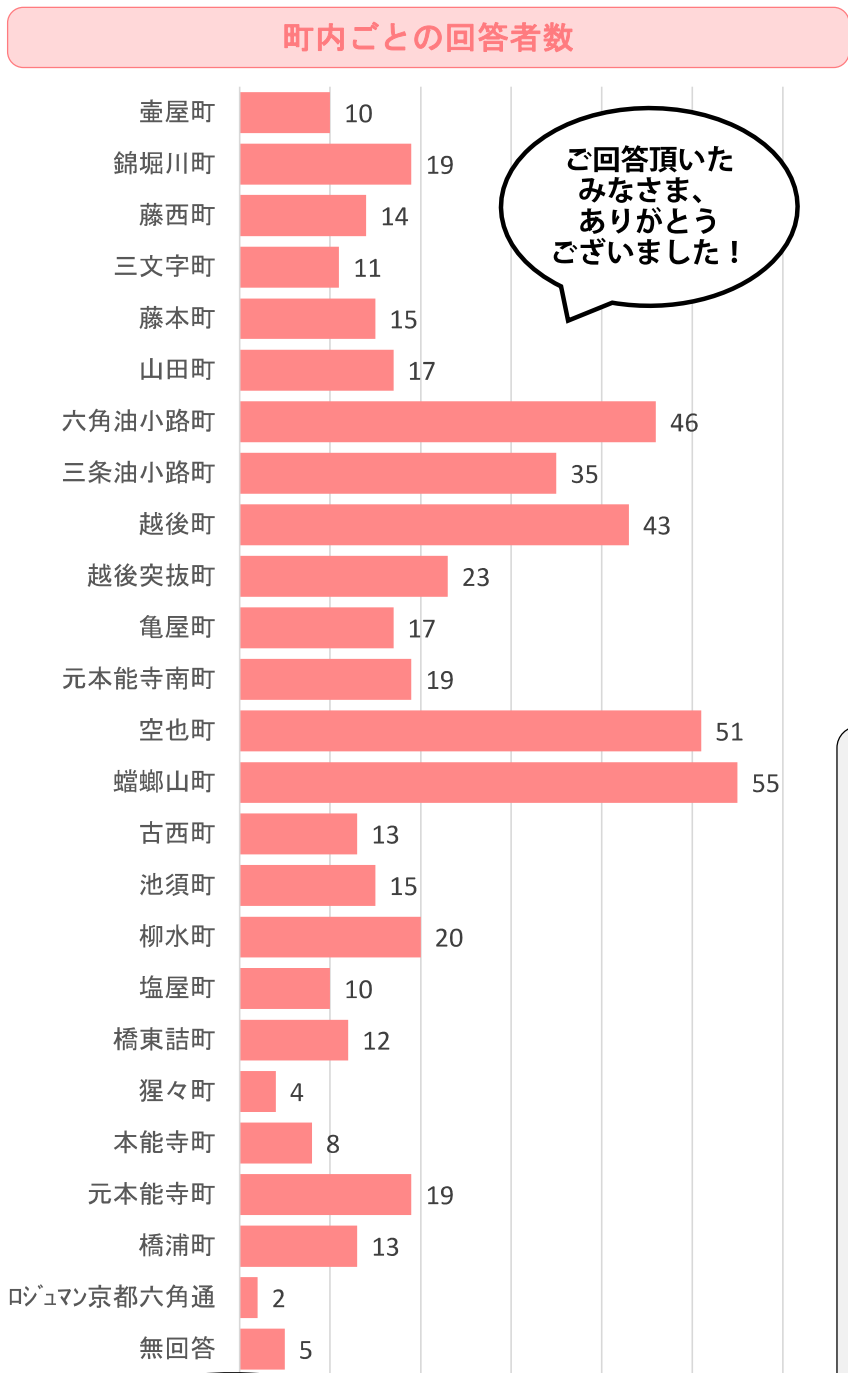
本能自治連合会
本能学区自主防災会
本能消防分団

本能学区では、令和2年度も引き続き、災害に強いまちを目指し、地域と行政、専門家が協力・連携して「防災まちづくり」の取組を進めています。

今年度は、新型コロナウイルスの影響により、一堂に会することが難しいため、まずは、住民のみなさんの「防災」に関する考えや不安等を把握し、今後の具体的な取組に繋げることを目的として、「防災まちづくり」に関するアンケート調査を行いました。

アンケート調査では、住民のみなさんから496件の回答を頂きました。みなさんに頂いたご意見を踏まえながら、今後の「防災まちづくり」を進めていきます。

ご回答頂いたみなさま、ありがとうございました！



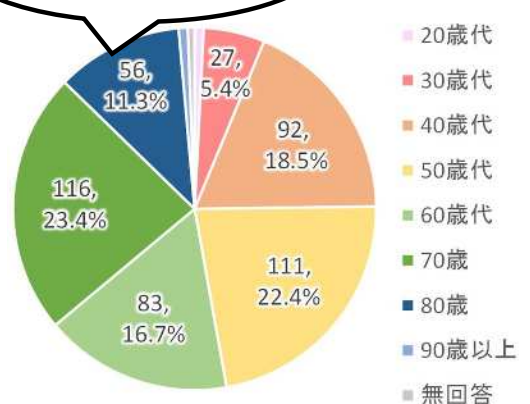
アンケートでみなさんにお聞きしたこと

1. あなたのこと、あなたのご自宅のこと
2. 本能学区について
3. お住まいの町内について
4. ご自身の防災の取組について

1. あなたのこと、あなたのご自宅のこと

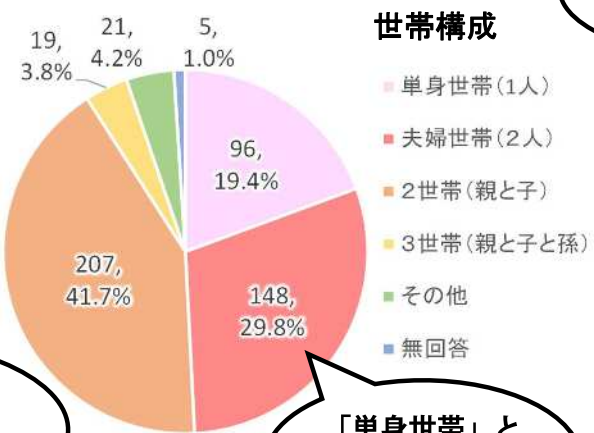
年齢

「60歳代」、「70歳代」、「80歳代」の回答者が約51%



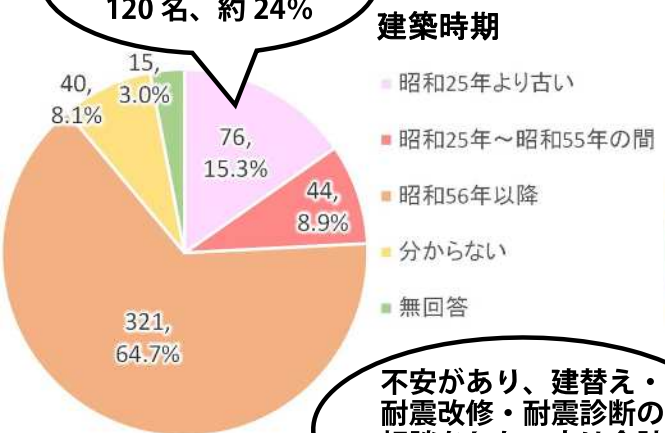
世帯構成

「単身世帯」と「夫婦世帯」の回答者が約49%



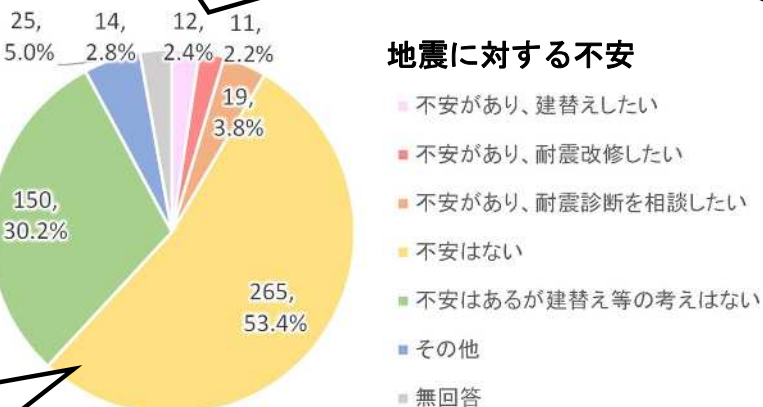
建築時期

昭和56年より前の回答者は合計で120名、約24%



不安があり、建替え・耐震改修・耐震診断の相談をしたい方は合計で42名、約8%

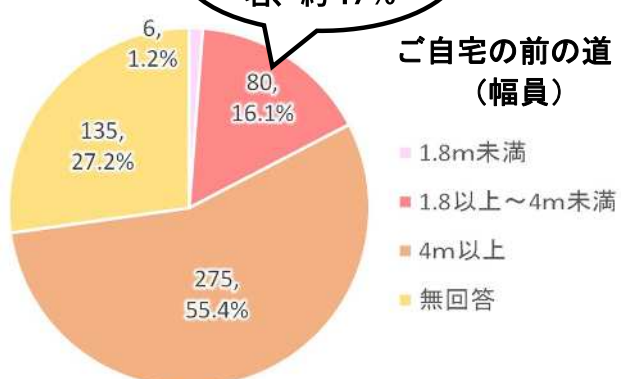
地震に対する不安



「不安はない」の回答者が約53%

ご自宅の前の道(幅員)

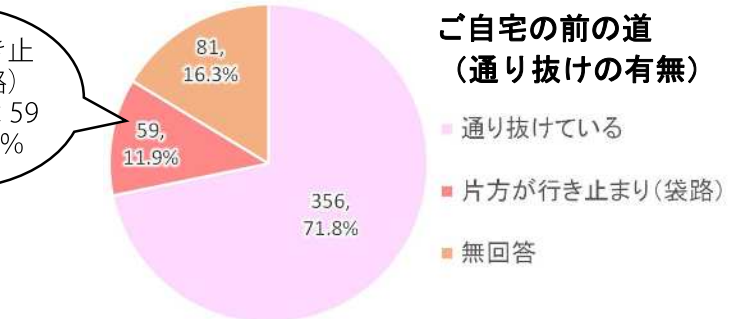
4m未満の回答者は合計で86名、約17%



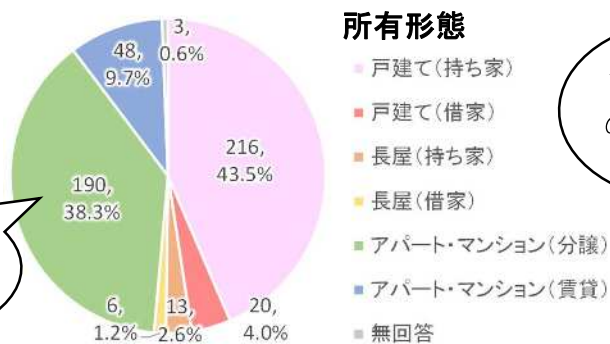
【参考】

ご自宅の前の道(通り抜けの有無)

片方が行き止まり(袋路)の回答者は59名、約12%



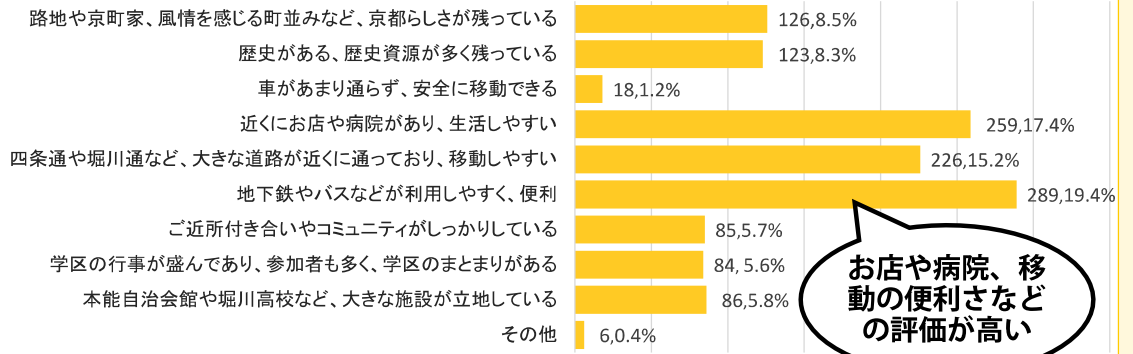
所有形態



アパート・マンション回答者は238名、約48%

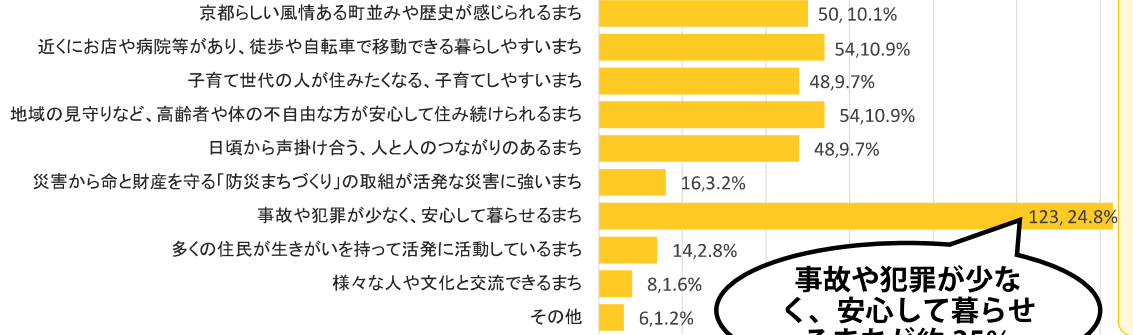
2. 本能学区について

本能学区の良いところ・大切にしたいところ



お店や病院、移動の便利さなどの評価が高い

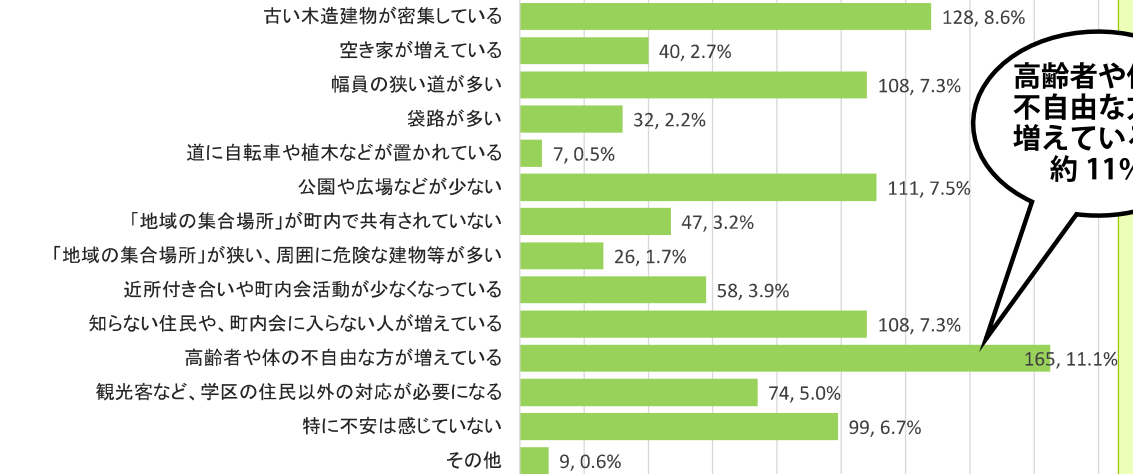
本能学区がどのようなまちになると良いか



事故や犯罪が少なく、安心して暮らせるまちが約 25%

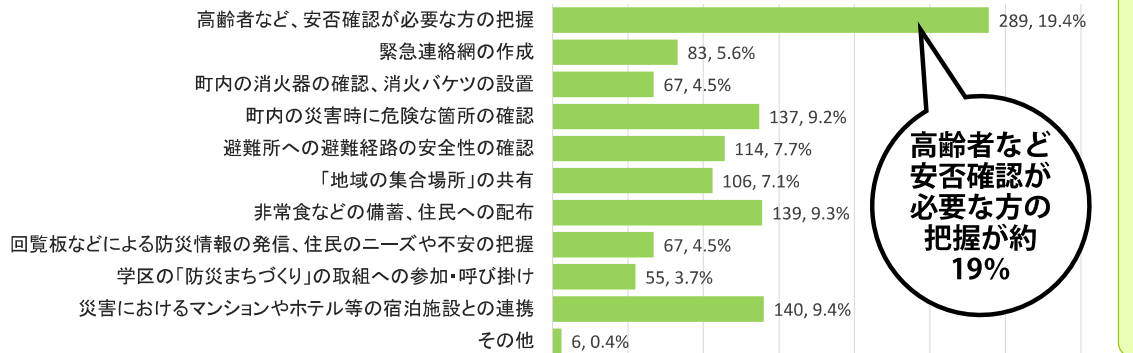
3. お住まいの「町内」について

大きな地震が発生した際に不安なところ



高齢者や体の不自由な方が増えているが約 11%

大きな地震に備えて町内会が取り組むべきこと



高齢者など安否確認が必要な方の把握が約 19%

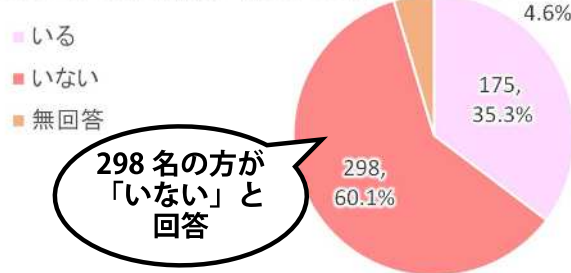
4. 「自身の防災の取組について

町内の「地域の集合場所」



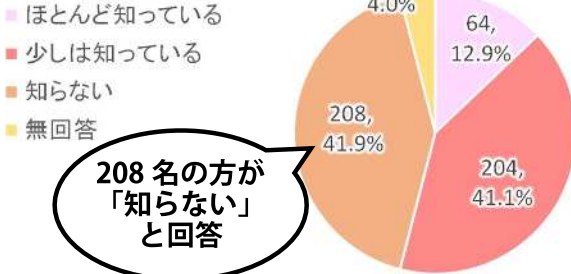
161 名の方が「知らない」と回答

災害時に安否確認に来られる方



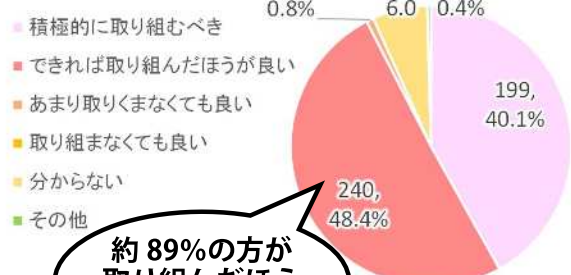
298 名の方が「いない」と回答

町内で安否確認が必要な方



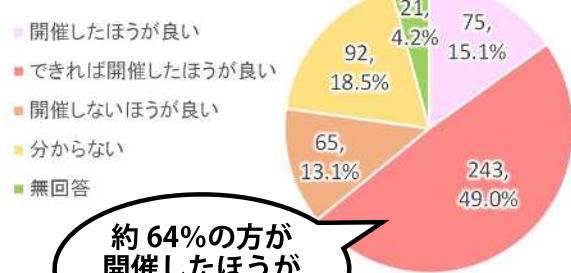
208 名の方が「知らない」と回答

防災まちづくりの取組



約 89%の方が取り組んだほうが良いと回答

今年度の「防災まちづくり」の取組



約 64%の方が開催したほうが良いと回答

今後の「防災まちづくり」の取組

「防災まちづくり」の主なアイデア

- ・コミュニケーションを取るため、町内単位での消防、警察を巻き込んだ訓練(緊急を行って、全員参加を目指す)。
- ・地域、学区の行事、祭事、イベント等の機会を増やし、顔なじみをつくる。
- ・子供も参加できる取り組みがあればと思います。
- ・町内ごとの避難計画。各町内会での行事にゲームなど防災の内容を取り入れてもらう。
- ・前回の避難所運営ゲームを再度実施すると良い。
- ・マンション住民が参加しやすい企画等を考えて、マンション住民を町内会に取り込む工夫をお願いします。
- ・人と人とのつながり。
- ・『向こう三軒両隣』の町内融和が必要。

- ・防災マップの配布。町内の避難場所のステッカーを再度配って欲しい。
- ・町内の防災まちづくりのため町内マップを作って自宅に置く。
- ・「地域の集合場所」は避難先に近く広い駐車場に見直した方がいい。
- ・マンションや町内の掲示板にハザードマップや「地域の集合場所」を掲示。
- ・「地域の集合場所」や緊急連絡先などを定期的に知らせる。
- ・町内会未加入者が災害時に置き去りにならないよう、防災と合わせて、自治会や町内会の根本的な見直しも必要。
- ・町名簿の作成、高齢者・身体不自由者の把握。
- ・こうしたアンケートを含め情報発信になる動きが多くあればと思います。
- ・日ごろから災害時に速やかで安全な行動のイメージを体に染み込ませておく事と、被害者にならないと高い意識を持つことが大事。
- ・大地震が起こった際のシミュレーションに基づく自助・共助・公助の在り方を具体的に情報提供して、啓発する。
- ・非常時に避難所が3密にならないよう、学区内のホテルの空き部屋を利用できるように平時から契約しておく。
- ・防災訓練は、定期的に行うべきだと思います。各町内単位での訓練が必要。

令和2年度 今後の取組について

今年度の『防災まちあるき』、『総合防災訓練』につきましては、新型コロナウイルスの影響もあり、引き続き、開催できるかどうかを検討しているところです。

開催の有無につきましては、決まり次第、改めてご連絡を致します。引き続き、災害に強いまちに向けた「防災まちづくり」へのご理解・ご参加のほど、よろしくお願いします。

